

日俳連公式の音声データベースの活用

“日本のプロの声”を守り、未来と世界へ——日俳連 公式の音声データベースが始動

日俳連と伊藤忠グループが、“声”の不正利用対策と音声AIビジネスを推進する覚書を締結

2025年11月14日

協同組合 日本俳優連合（以下、日俳連）、伊藤忠商事株式会社（以下、伊藤忠商事）、伊藤忠テクノソリューションズ株式会社（以下、CTC）の3者は、声優・俳優など、声を生業とする実演家の音声を中心に、安心して保管・活用し、世界に届ける新たな取り組みとして、公式音声データベース「J-VOX-PRO（仮称）」を立ち上げます。声の不正利用対策・音声AIビジネス・海外展開までを一体的に支援するもので、3者はこの推進に関する覚書を締結しました。さらに、行政とも連携し、制度整備やルール形成に基づく、不正利用への対策を進めながら、健全な音声ビジネスの発展を目指します。

MTG資料

JVOXPROについて

日俳連 音声保管ストレージ
＝プロ実演家のAI利用に関する意思表示と音声を保管する場所



▼ ロゴデザインのコンセプト

”Japan“ と、ラテン語で「声」を意味する ”Vox“ 、“PRO“の文字と組み合わせることで

「**日本から発信する、最高品質のプロフェッショナルな声のストレージ(Box:箱)**」

音声を保管場所を提供するのは、「日俳連様」

音声データの所有一権利は、「実演家様」

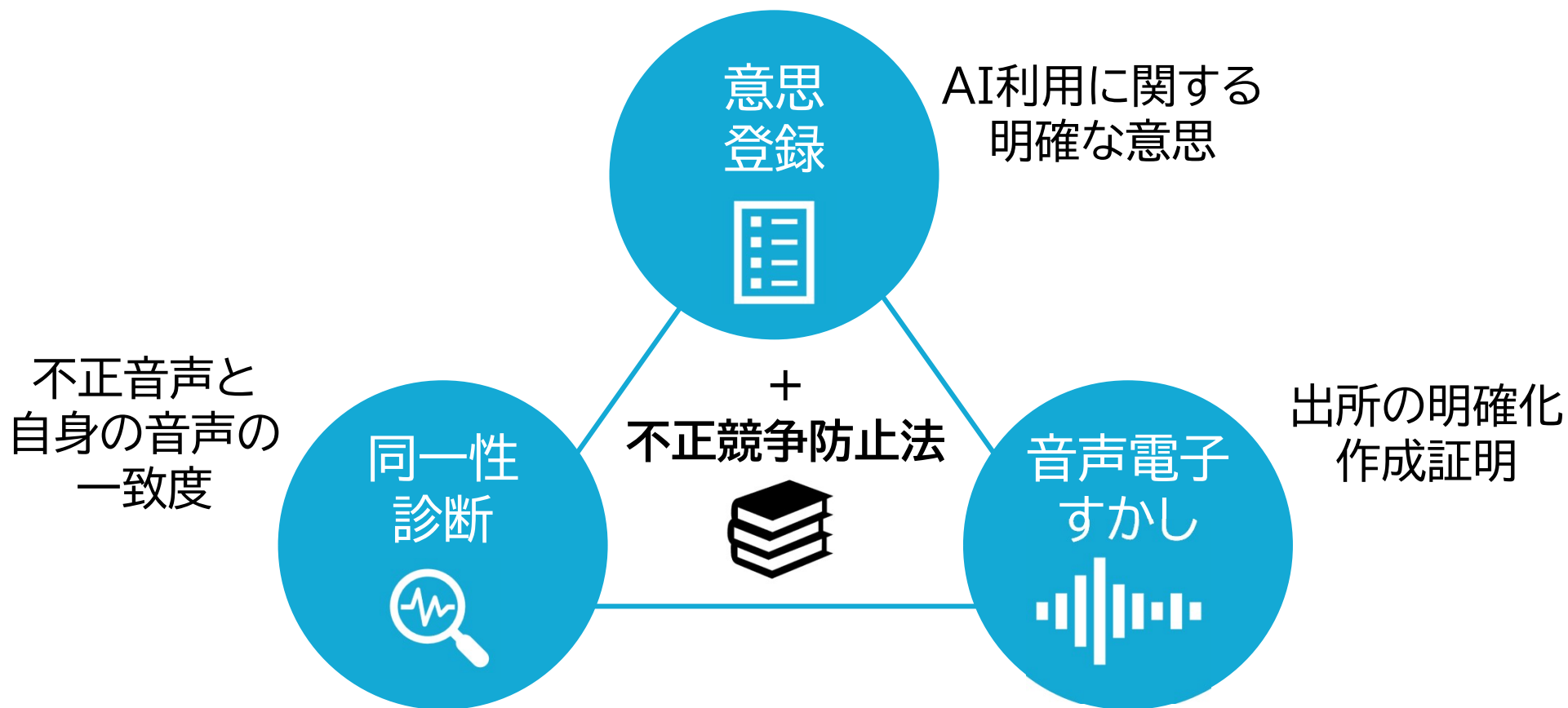
→CTCはあくまで、管理の委託を受ける 「受託者」

日俳連は他関連団体と連携しながら、
2023年～ AI音声利用に関する5つの取り組みを開始

AI音声利用に関する5つの取り組み

- | | |
|---|------------------------------|
| 1 | 不正利用対策 |
| 2 | 権利保護のためのガイドライン策定 |
| 3 | 政策提言と法整備の推進 |
| 4 | 教育・啓発活動 |
| 5 | AI利用に関する意思表示の収集と音声を保管する場所の提供 |

「JVOXPRO」の守り
→3つの施策で直接／間接的に不正利用を防止



JVOXPROについて

音声電子透かしについて →C2PA準拠の音声電子透かしを活用します

C2PAと音声電子透かし： デジタルの真偽を守る 「見えない名札」

誕生の背景：なぜ「C2PA」が必要なの？



声紋認証について

→なんとなくではなく、デジタル的に同一性を判定します

声紋認証の3ステップ



① 特徴の抽出と数値化
声帯の振動や話し方のクセをスペクトル情報や韻律として取り出します。

② 声の「IDカード」作成
AI（話者埋め込み）を用いて、声の特徴を数百個の数字の列に変換します。

③ 類似度の計算と照合
登録データとの「距離」を計算し、基準値を超えれば本人と判定します。

AI偽造を見抜く「生体検知」



微細なノイズの検知

AI生成特有の周波数のズレや、スピーカー再生時の機械的な歪みを探します。

Natural



AI Fake



位相のズレをチェック

自然な発声ではありえない音の波のタイミングのズレをAIが分析します。



法的な「声の権利」の保護

技術だけでなく、肖像権などの法律で声を守る議論も進んでいます。

JVOXPROについて

もし不正を発見したら・・・
→日俳連が盾になります

STEP1

保護対象
の特定

- 不正利用状況の確認
- 営業秘密とする情報か確認

・不正疑義サービス特定／保持
・音声データ、意思表示、
利用規約の準備

STEP2

要件の主張
・立証

- 営業秘密の3要件を満たすことを準備

・秘密管理性：
会員制＋パスワード管理
・有用性：
商用利用で収益獲得
・非公知性：
一般公開なし

STEP3

不正取得・使用
の立証

- 不正取得／不正使用の
文書化

- 意思登録
- 電子すかし
- 声紋の活用



STEP4

差し止め
請求

- 内容証明等の通告

・不正サービスの利用停止
／削除依頼

STEP5

損害賠償

- 訴訟手続き
日俳連として
ここまでいけるかは
要検討事項

・ライセンス相当額試算
・訴訟に関する本人同意確認

具体的アクション

不正競争防止法について
→商用利用を目指すことで、法律的に武装することが可能です

不正競争防止法で 守られる種類	守られるために必要な要件	J-VOXに必要なもの
営業秘密	秘密管理性	声優の音声ファイル・メタデータをアクセス制限
	有用性	サービス提供やライセンスに収益化を実施
	非公知性	公に公開されていないデータ
限定提供データ	電磁的記録	音声データ(デジタル録音)
	限定提供性	契約で利用者を限定
周知表示	周知性	「J-VOX PRO」ブランドが需要者に広く認知される
	混同惹起	—
著名表示	著名性	業界内外で全国的に知られる「J-VOX-PRO」
	不当利用	—

「JVOXPRO」の目指す先

「守り」



違反利用発見時の 対抗策

- 電子透かしや声紋認証を取り入れることで、類似データを発見した際に、非公認である証明が可能
- 意思表示もあわせて明示
- 意思表示＋デジタル証明の両面を揃えることで、違反利用を証明
- あわせて、ビジネス化しておくことで、不正競争防止の観点からも違反利用を追求

「攻め」



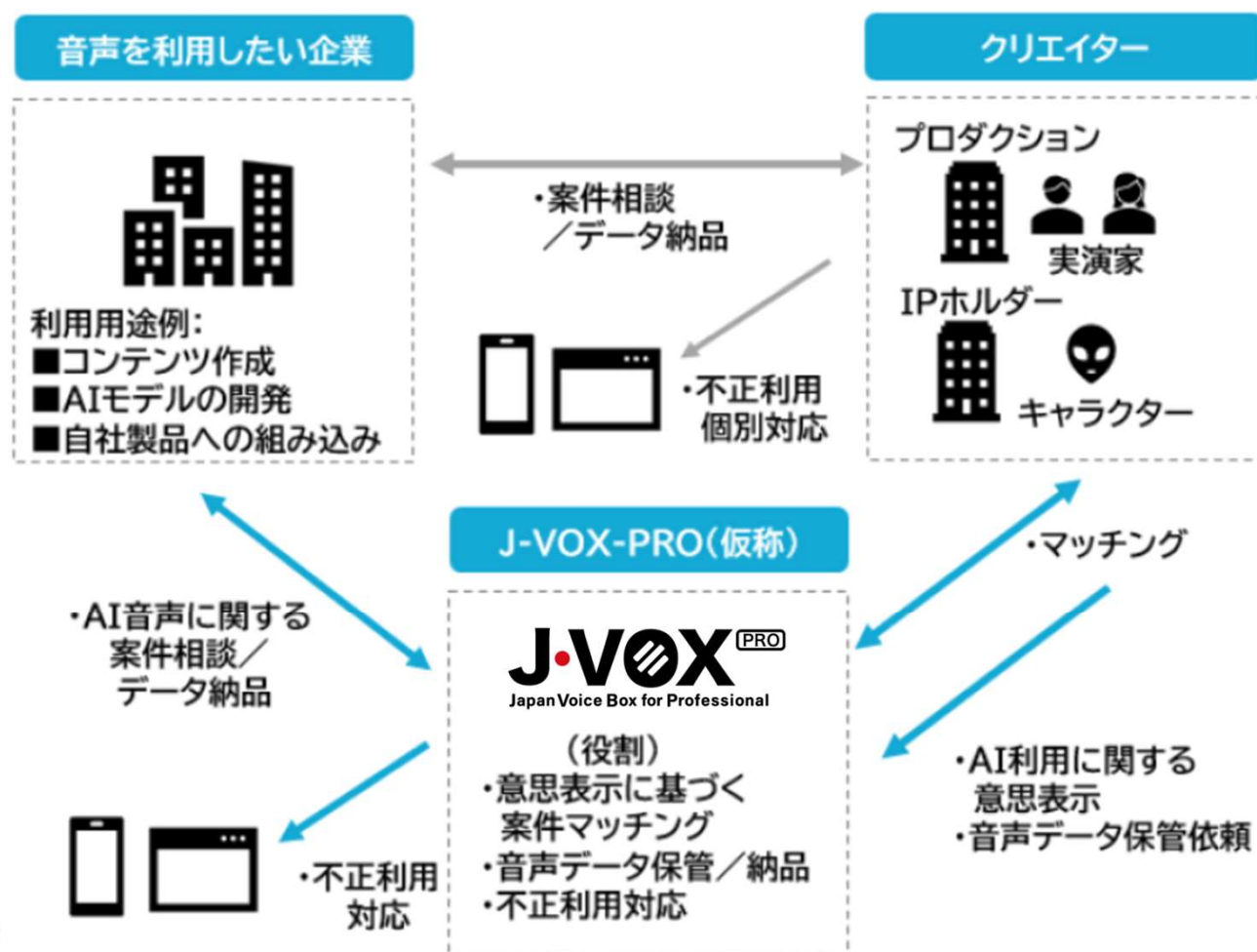
新たな販路先の 創出

- 団体公認の音声データを提供することで
一信頼度／利便性向上による国内利用者の拡大
(民間だけでなく、研究団体や医療機関も)
一適切な価格提供による利益の分配
- 純国産音声マーケットプレイスを立ち上げることで
団体の管理下におきながら、安心安全に
日本の声優文化をより広く国内外へ発信していく

項目	個別管理	CTC委託管理
費用	・個別で保管管理費用が発生	・個々の保管管理費用は発生しない ※収益化の際に手数料が発生
セキュリティ	・個別の構築レベルに依存	・システムのプロが高セキュアな環境を提供
権利管理	・個別に管理する仕組みの構築が必要	・誰がいつ、どの音声を使用したかを一元管理 ・無断利用のトラッキングや証拠保全を実施
不正利用対策	・個別で抽出し、発見時にも個々で対応が必要	・電子すかし／声紋認証の機能拡充だけでなく不正利用差し止め支援も実施
ビジネス創出	・交渉や契約、分配の運用が煩雑になり、コストや人的リソースが増加	・新しい販路を創出し、ライセンスビジネスの展開促進

JVOXPROについて

＜AI音声活用における権利保護とビジネス展開のイメージ（将来）＞



【将来】
AI音声ビジネスに関して
「J-VOX-PRO(仮称)」が
不正利用対応を実施。
新しい販路も開拓していく

JVOXPROについて

参加実演家から見た
「J-VOX-PRO」への参加メリットPoint
1

不正発見時の差し止め対応を日俳連+CTCが実施

Point
2

J-VOX-PROに音声データを登録することで、不正競争防止法で保護される
→法律根拠の獲得。※法律的観点精査中

Point
3

希望すれば、自身のAI利用に関する意思表示を企業に開示でき
音声データを活用した新しいビジネスチャンスが広がる

よくあるご質問

- 確実に不正を証明できるのか？
→100%確実ではありません。従来より高い確率で証明できると考えます
- 絶対に不正利用を防止できるのか？
→絶対的な対策とはなりませんが、高い抑止力にはなると考えます
- 声紋は必須か？
→不正を科学的に証明するために、あったほうが証拠力があがると考えます
- 電子すかしは必須か？
→世界的な流れから見ても、今後必須になっていくと考えます

よくあるご質問

- 所属事務所への相談はあるか？
→各自で所属事務所へのご相談をお願い致します
- 保管費用は発生するのか？
→無料となります。保管費用はいただきません
- 他社サービスとの重複登録は可能か？
→可能です。JVOXPROは皆さまの選択肢の1つです。
- 個人で複数の音声を保管できるか？
→可能です。ご自身の登録しておきたい音声のご提供をお願いします